

皆さん、おはようございます。

東雲中学校の皆さんは10月3日の東フェス、10月11日の学校説明会など二学期も色々な行事やイベントで素晴らしい活躍やその姿をみせてくれていて本当に心強く頼もしく感じています。

この後も来月には日本だけでなく、今年は特に世界各国からここ東雲での11月15日の公開研究会にとっても多くの方々が参加くださる見通しです。その前の10月25日には東雲小学校で150周年の記念式典も開催予定です。東雲中もまもなく80周年をむかえますが、東雲小は実は広島大学の中で最も古い歴史をもち、東雲小が東雲中だけでなく広島大学の源流になっています。この東雲小の150周年記念式典にむけていま小学校の皆さんが色々と準備を進めていますが、是非とも東雲中の皆さんにも色々とお力添えをしてもらいたいと考えていますので、先生方から皆さんに関連したお声かけがあったおりには可能な範囲でどうかよろしくお願いします。

ところで、いま皆さんは大阪での万博が終わったことや、ノーベル賞の話題を色々なところで聞いていると思います。万博の目的は「さまざまな課題に取り組むために世界各地から英知が集まる場」とされています。ノーベル賞は物理学、化学、生理学・医学、文学、平和の各分野で「人類に最大の貢献をもたらした人々」に贈られる賞です。2012年に生理学・医学賞を受賞された京都大学の山中伸弥先生はこれまでつなげたり組み合わせることができなかった4つの遺伝子をもとにiPS細胞を導き出されたことが高く評価されました。

この山中先生ですが色々なところで「人間万事塞翁が馬」のお話をされています。実は山中先生は大阪教育大学の附属学校のご出身ですが、大学は神戸大学の医学部に進まれて最初は医師の道から入られています。しかし整形外科の医師としてはなかなか難しい経験をされて医師の道から研究の道へと転換をされました。研究の道でも必ずしも順調なことばかりではなかったようです。ある日、研究室の一員であった広島市出身の高橋和利先生、高橋先生はもともと大学の工学部出身でしたが、この高橋先生たちとの地道な実験からiPS細胞の発見へとつながりました。

このような経緯からも山中先生は「人間万事塞翁が馬」を座右の銘のように色々なところで語られていますが、このような考え方や生き方は、これまで皆さんにも紹介をしてきた附属東雲の先輩方、例えば漫画家のこうの史代さん、デザイナーの三宅一生さん、そしてカルビー創業者の松尾孝さんにも通じることと考えます。いま皆さんの中でとても順調なことやうまくいっていることがどれくらいありそうでしょうか。一方で頑張っているのになかなかうまくいかないこと、どうしてもできないことはどのくらいありそうでしょうか。今日は皆さんの中でそれぞれに「人間万事塞翁が馬」の意味や解釈について考えてもらうことを期待しながらお話はここまでとしたいと思います。